

KUMON

2024?

指導者 渡辺 康子

TEL 0586 - 68 - 2164
090 - 1284 - 9961

X-リアドレス yasuko.w.kumon@icloud.com

7/17(水) お休み
7/29(月) 7月

7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8/12~15お休み 8月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

〈一宮上祖父江〉

月: ^{PM} 4:00 ~ 6:00

PM 7:00 ~ 8:30

火: ^{AM} 10:00 ~ 11:30

PM 7:15 ~ 6:30

〈一宮三条〉

冰: PM 3:00 ~ 7:00

木: PM 3:00 ~ 5:30

おてほんをみてかん
じをかいてみよう？
小学生までの子、さんかしてネ

かいたら、先生にわたしてネ

〈公文認定とはどのようなものか?〉

公文では7月と1月に認定を実施しています。
認定は級と段がありますが、どの教科でも
F教材が終了していれば初段を受けること
ができます。 級は「今学習しているところ」
の級の課題を書いていただくので、合否の
判定はなく、上位25%の方に優秀・優良と
いう賞が与えられます。

段には合否があり、合格すれば次の段を受けることができます

公文の考え方として個人別指導を大切にして
いますので、認定により比べることが目的では
ありません。『習っているところがポイントを意識
して、手本通り書けるか?』ということを確認する
節目だと考えましょう (※ 段々手本を見ないで書く)

〈認定料について〉下記のいずれかです

級のみの方... (1人) 300円 段を受ける方... (1人) 1,000円

・8月の月謝に認定料を加えてお支払ください

王 山 子 力 七

なまえ

中学生以上の大人の生徒さんには今年も希望の絵葉書とお手本をお渡しします。自分の住所・名前部分のお手本もご希望があれば作成します。

運始開 (11月11日)
7/12 ~ 17頃

季節のお話
—小暑の中—

夏の盛りの朝早く、大輪の花
を咲かせる蓮。水面下では泥に
根をはり、氷上で清らかな花を
咲かせることから、「悟り」のたとえ
として仏教では神聖
な花とされてきた。中国
で「蓮酒」はすでに酒を注ぐ風
習があった。



～その① 横画～

3 $\xrightarrow{\quad}$ 5

$\boxed{\text{二}}$

予ア

- ・ やや右上りにかく
- ・ 始筆は筆圧が3、終筆で5。(だんだん太く)
- ・ 筆、筆ペンではななめに置いて、最後もななめに止める
- ・ 手首を左から右に振る(スライドする)ようにかく

おお、神さまはいま
このなかに

みどりのつぼみ
ただひとつ、

キリリ、キリリと
ねじをとく、

せみもなかない
くれがたに、
ひとつ、ひとつ
ただひとつ、

夕
顔

金子みすず“明るいほうへ”より



6月のかん字

はらいにきをつけて
かけました 

[illegible]



教室だより

～ シニアだより No.12 ～

2024.7

KUMON

— 宮上 祖文江 書写教室 —

— 宮 三 条 —

指導者 渡 辺 康 子

TEL 0586 - 68 - 2164

090 - 1284 - 9961

7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

< シニア教室から おしらせ >

□一回目の教室

教材は2回分お渡しし、
教室でのみ書いても良い
です。家で練習しても良い
です。不足したら、用紙差し
上げます

□二回目の教室

家で書いたものと展示する
ベース(ボードや額)をお
持ちください

色々工夫し、楽しんで作品
を仕上げましょう

< 浴衣 (ゆかた) について >



- ・浴衣のはじまり。
光明皇后が建てたむし風呂で着ていたもの
= 湯帷子 (ゆかたびら)
↓
- ・平安時代・入浴時に着るものに
↓
- ・湯上りに着るもの (綿で吸汗性・風通しがよい)
↓
- ・寝間着 (ねまき) として着る
↓
- ・江戸時代・今のような着方をするように



< 光 の 字 源 >

甲骨文 金 篆文 (篆書)

𠂔 → 𠂔 → 𠂔

- ・光は会意文字です
・“火(火)”と“儿(人)”とを
組み合わせた漢字
- ・古代の人々にとって火は
とても神聖なもの。その
ような火を扱う聖職者
が光。→ 「火のひかり」その
ものを光と言うようになった
- ・光の意味は「かがやく」
他にも「ほまれ」= 評判

白鷺の

白鷺の白

力かま

青田 かな
正岡子規

